

推定画を描く

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



平安京右京三条二坊十六町・高宮邸の推定画像(上・右下)と平面図(右上)

CG画像資料提供 NHK・大成建設設計本部

遺構を復元する 発掘調査で出土した遺物は元の形に復元して展示しますが、検出した遺構もわかりやすく復元できないのでしょうか。遺構の図面は専門の記号を使って多くの情報を書き込むために、一般的には決してわかりやす

いとはいえません。そこで、調査地全体の様子が一目でわかるように、当時の状況を復元した推定画を描き表すことも行なっています。絵を描く前に 推定画は単にイメージだけで描くわけではありません。遺構の図面や写真はもちろ

んのこと、昔の絵図などの文献史料も建物配置を知る上で貴重な資料となります。また、描こうとする現地の自然地形も重要な要素です。当時の植物の種類も調べなければなりません。人物を登場させるには身につけている装束や使っ



法金剛院の推定イラスト(左)と東御所跡の遺構(右上)・平面図(右下)



西市外町
検出遺構(上)と推定イラスト(右)



長岡京南東部の宅地
建物跡の遺構(上)と推定イラスト(左)

ている道具など、絵に出てくるすべてのものを検証することから始めます。

イラストを描く 遺構平面図の上に建物を建てます。図面の柱穴に柱を立て、溝には深さを与えて遠近感をつけた図に描き換えます。柱の高さや木材の組み方、壁の質や色、屋根の仕組みなど、まるで家を建てるように基礎から積み重ねていきます。同時に、空開地の使われ方も考慮しなければなりません。空き地なのか菜園として使われているのか、樹木があればその種類なども調べます。そのようにして、大まかな推定図の下書きができ上がります。

次に、描こうとする季節や、およその時間を設定して細部まで詳しく描き込みます。進めば進むほど、準備段階では想像できなかった資料も必要になってきます。

推定画を完成する このようにして幾度も推察を重ねて描いた下図をもとに、水彩色鉛筆で彩色して仕上げます。色鉛筆で線描きしたり、水溶性を利用して広い面積を描くにも適しています。この仕上げの段階では、太陽の方向を常に意識します。建物の高さは影を描くことで際立ち、太陽の高度で時間も表現できるのです。これまでに複数の推定画を描いてきましたが、ある時は人々の生活を表現

した絵を、またある時は建物配置を中心に...と、1枚の絵に要求される要素がそれぞれ異なっていました。

これからの推定画 近年、コンピュータ・グラフィックス(CG)による2次元や3次元画像の利用も高まってきています。斎宮邸の推定画は、2002年NHK『アジア古都物語』で放映され、研究所は調査成果の提供と監修をしました。

推定画を描く機会は、そう度々はありませんが、絵に表すことで新たな発見も多くあります。課題は山積みですが、これも意味のある複元作業のひとつです。

(出水みゆき)